



MENU

1. 検査受付できません ～リストバンド未装着にご注意ください～
2. 安全な輸血療法のため、不規則抗体スクリーニング検査の実施をお願いします
3. インタクトHCGとトータルHCGの違いって何？
4. 診療前検査の検査結果報告までの所要時間について

1. 検査受付ができません ～リストバンド未装着にご注意ください～

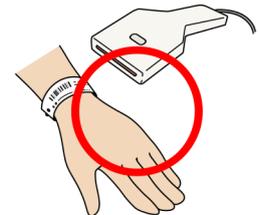
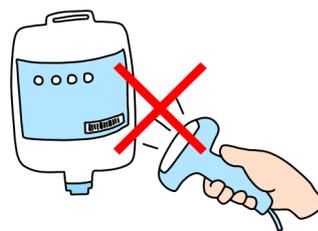
生理機能検査室（心電図、肺機能、脳波、腹部超音波、心エコー室）では、入院患者さんの検査受付を、医療安全対策マニュアルに則って、リストバンドのバーコード読み取りで行っています。

リストバンド未装着で検査に来られた場合、検査受付ができません。

尚、点滴バックなどに貼付されている患者バーコードでは、検査受付はできませんのでご注意ください。

☆ リストバンド未装着だった事例

- ① 他検査でリストバンドを切断後、そのまま心電図検査に来た例
- ② 病室でリストバンドを装着せずにベッドに貼付していた例
- ③ 入院後、直ちに心電図検査に来た例



お問い合わせ：心電図検査室 内線：36570

2. 安全な輸血療法のため、 不規則抗体スクリーニング検査の実施をお願いします

1. 不規則抗体スクリーニング検査とは

不規則抗体は、赤血球液（RBC）の輸血、妊娠や移植によって産生されるIgG型抗体です。不規則抗体スクリーニング検査は、輸血を受ける患者さんの血液中に、RBCと反応する抗体が存在しないかを調べる検査です。

2. 検査の目的

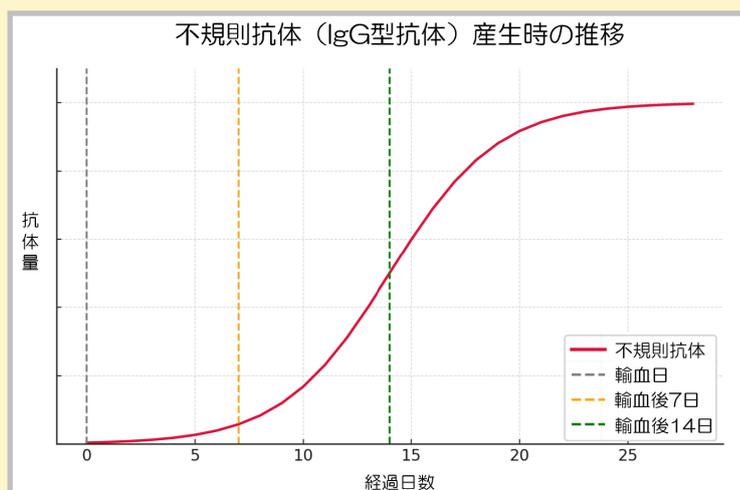
不規則抗体を保有する患者さんに、その抗体と反応する赤血球を輸血すると、抗原抗体反応によって輸血された赤血球が破壊される溶血性副作用が起こる可能性があります。不規則抗体スクリーニング検査は、こうした副作用を可能な限り未然に防ぎ、安全な輸血を行うために不可欠な検査です。なお、輸血前に実施する交差適合試験はスクリーニング検査に比べて感度が低く、不規則抗体の存在を見逃すおそれがあるため、スクリーニング検査の実施は非常に重要です。

3. 適切な検査のタイミング

輸血実施予定日3日以内

RBC輸血予定のすべての患者さんが不規則抗体検査歴や輸血歴にかかわらず、検査を受けることが望まれます。

※連日にわたって輸血を行う患者さんも同様の頻度で検査を実施することが望まれますが、保険診療上、概ね1週間毎に検査を実施することをお勧めします。



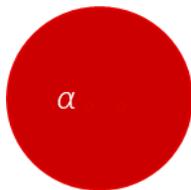
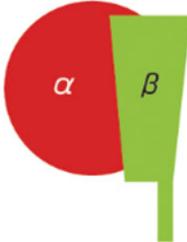
お問い合わせ：輸血検査室 内線：36410

3. インタクトHCGとトータルHCGの違いって何？

ヒト絨毛性ゴナドトロピン（Human chorionic gonadotropin: HCG）は、主に胎盤絨毛細胞から分泌される、妊娠の成立・維持に重要な働きをする糖タンパクホルモンの1つです。当院では、インタクトHCGおよびトータルHCGを測定しておりますので、その違いについて説明いたします。

HCGは α 鎖と β 鎖からなり、これらが非共有結合することで生物学的活性を有し、HCGとしての作用を示します。

α 鎖は甲状腺刺激ホルモン（Thyroid stimulating hormone: TSH）や卵胞刺激ホルモン（Follicle stimulating hormone: FSH）、黄体化ホルモン（Luteinizing hormone: LH）の α 鎖と同一構造です。それに対して β 鎖はHCG特有の構造をしています。通常、HCGの β 鎖は産生されるとすぐに α 鎖と結合するため、血中にはほとんど存在しませんが、胞状奇胎や絨毛癌、睾丸腫瘍などの疾患で高値を示す場合があります。

		α 鎖	HCG	β 鎖
				
構造		TSH、FSH、LHの α 鎖と同じ	α 鎖と β 鎖が非共有結合	HCG特有
生物学的活性		なし	あり	なし
測定対象	インタクトHCG	×	○	×
	トータルHCG	×	○	○
高値を示す疾患			妊娠	絨毛癌等のHCG産生腫瘍

インタクトHCGでは非共有結合したHCGの濃度を測定します。トータルHCGはHCG特有の構造である β 鎖を測定対象としているため、非共有結合したHCGに加え、遊離しているHCG β 鎖を含めた濃度を報告しています。

4. 診療前検査の検査結果報告までの 所要時間について

診療前検査は、主に血液・尿・感染症・生化学を対象に実施しています。所要時間は**検体の到着・受付から結果報告まで**を指し、検査項目によって異なります。以下に主な検査項目の所要時間をお示しします。

	検査項目	所要時間
血液	▼CBC ▼CBC+血液像	15～30分 15分～3時間 (※1)
凝固	▼PT ▼APTT ▼フィブリノーゲンなど	30分～1時間
尿	▼尿定性 ▼尿定性+尿沈渣	10～20分 10～40分 (※1)
感染症	▼CT/NG同時核酸検出	1時間20分
生化学	生化学スクリーニング（総蛋白 AST など） ▼中性脂肪 ▼CRP など	1時間
	▼GLU ▼HbA1c など	30分
腫瘍マーカー	▼CEA ▼ α -フェトプロテインなど	1時間
ホルモン	▼プロラクチン ▼TSH など	
薬物	▼フェノバルビタール ▼タクロリムス など	1時間 (※2)

※1 自動機械法で異常が見られた場合や鏡検法では、標本作製と技師による目視鏡検を行うため、最終報告までに時間を要します。

※2 凝固に時間を要する検体は、報告時間が延長する可能性があります。

なお、検体の性状や再検査、検体希釈による測定を行った場合、結果の報告が延長する場合があります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

お問い合わせ：生化学検査室 内線36430
血液検査室 内線36440
尿検査室 内線36490

広報委員：山田暁、盛合美加子、齋藤和、小野真弓、熊倉美穂、三浦早貴